

私の紙面批評

弁護士

清源 万里子

本紙の魅力の一つは、多回新聞社は07年度から、地域de子育て応援キャンペーン「こどもっと」を展開していることだ。5月11日付夕刊では、県開。毎回異なるテーマを設けた。抱え込まずに、相談によつて早期対応、改善へとつながるようという配慮がうかがえた。

内の子どもたちが携帯型タブレット機を使ってインターネットに接続している現状を、保護者の約4割が把握できていないことを大きく報じた。2017年度の県青少年ネット利用実態調査で浮き彫りになった現実。見やすく、温かい雰囲気も

社会が子育て認識を



(きよもと・まりこ) 1981年、中津市生まれ。2008年弁護士登録。11年大分県弁護士会入会。日本弁護士連合会・犯罪被害者支援委員会委員。現在、子育ての真っ最中。

に適切な支援へつなぐことができれば、未然に防げる問題は多いであろう。

子どもは社会の宝であり、社会全体で守るべきだ。少子化の原因は複合的だと思いが、歯止めをかけるには、子育てしやすい環境づくりが大変重要である。だが、推進するには、子育て

に驚いた方は多いだろう。漂って親しみやすい。本年さらには、17年には会員制度から掲載ペースが毎月1回へと増えた。5月25日付朝刊の特集は「悩み抱え込まずに」の見出しで、未就学児がいる家庭に役立つ情報をまとめた。子どもの発達(発達障害)に関する分かりやすい解説、自治体の相談窓口や支援機関の連絡先も紹介して報じていただきたい。

全国で1813人いたという警察庁の統計も掲載し、注意を喚起。いずれも子どもを犯罪から守るために保護者や関係機関が認識、共

有すべき重要な情報だ。少子化が進む中、大分合

介。子育ての悩みを一人で